



今回のトピックスは...  
**新しい抗うつ剤**  
**ザズベイ（一般名：ズラノン）**  
**について**

**ザズベイとは？**

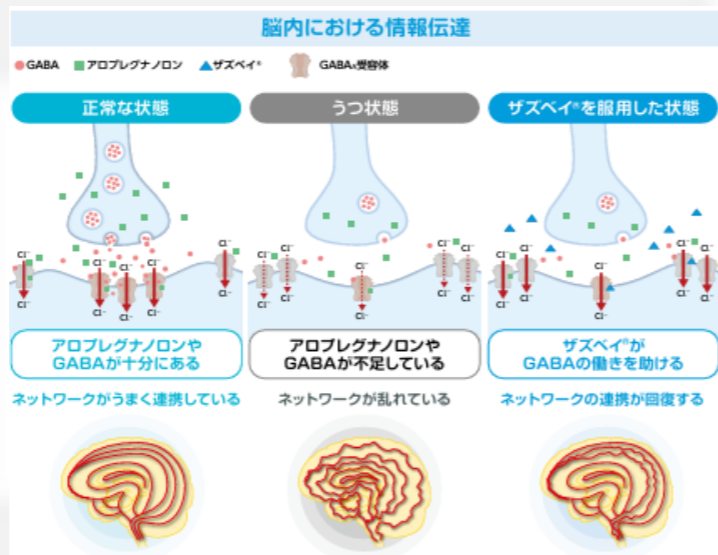
14日間の服用で速やかな効果が期待できる新しい機序（アロプレグナノロン様GABA<sub>A</sub>受容体機能賦活）の「うつ病・うつ状態」治療薬です。従来薬と異なり、短期間で急性期の症状改善を目指す「1日1回14日間」の短期集中治療に用いられ、脳内のブレーキ役であるGABA受容体に直接作用し、神経の興奮を鎮めます。従来の抗うつ薬（SSRI等）はセロトニンなどの神経伝達物質を調整するため、安定した効果が出るまでに時間がかかりましたが、ザズベイは直接的に脳の興奮を抑えるため、速い効果発現が特徴です。

**ザズベイの作用機序**

人間の脳内では、多くの神経細胞がネットワークを形成し、情報を伝達しながら高度な機能を担っています。うつ状態が続くと、アロプレグナノロン※1が低下したり、GABA※2の働きが十分でなくなったりして、脳内のネットワークの連携が乱れることがあります。ザズベイはアロプレグナノロンのような働きをし、GABAの働きを助けることで、ネットワークのバランスを整える作用があると考えられています。

※1 アロプレグナノロン：神経保護の役割を果たす脳内物質の一種

※2 GABA：抑制性の神経伝達物質



**ザズベイを服用する際の注意**

**服用期間:** 14日間連続で毎日服用します。

**服用タイミング:** 夕食後。

**飲み忘れ:** 飲み忘れた場合は、気付いた時点でその日の分を服用しますが、翌日に2日分を一度に飲むではいけません。

**再治療:** 6週間以上の期間を空ける必要があります。

**禁忌・注意:** 妊娠中、または妊娠している可能性のある女性は服用できません。

**ザズベイの副作用（注意が必要な症状）**

- ・会話にまとまりがなく、何となくぼーっとしている
- ・夕方から夜にかけて、興奮して眠らなくなる
- ・時間や日付、自分のいる場所、家族の名前などを言い間違える
- ・人が変わったように不機嫌でイライラしている
- ・実在しない人や物が見えるような動作をする

**運転の禁止**

眠気やめまいを引き起こす可能性があるため、服用中は自動車の運転や危険な機械の操作は避けてください。

参考資料：塩野義製薬より

**埼玉精神神経センター理念**

- ☆Love & Sympathy（愛と思いやり）
- ☆Aging with Dignity（尊厳ある人生）
- ☆Narrative based Medicine（個人の人生観に沿った物語を支える）

病める方・悩める方に愛と思いやり（Love & Sympathy）を持って接し、その方の尊厳ある人生（Aging with Dignity）を支え、前向きに人生の物語を書き換えていくこと（Narrative based Medicine）をお手伝いする。



「シナプス」2026年5月号 VOL.208

発行日：2026年5月1日

発行元：社会福祉法人シナプス 埼玉精神神経センター 総務

発行責任者：岡田浩一

住所：さいたま市中央区本町東6-11-1

TEL：048-857-6811（代表）

URL：https://saitama-ni.com

E-mail：sni-support@saitama-ni.com



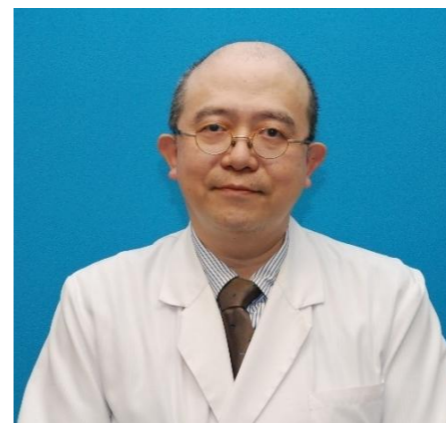
シナプス

2026年5月

**院長交代のお知らせ**

2026年4月1日より、丸木雄一医師に代わり、崎山快夫医師が新院長に就任いたしました。丸木雄一医師は、理事長及び医師として、今後も変わらず患者さんや地域に貢献できるよう努めてまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

◆ごあいさつ



**埼玉精神神経センター**

院長  
 さきやま よしお  
**崎山 快夫**

- 1998年 東京大学医学部 卒業
- 1998年 東京大学大学院医学系研究科客員研究員
- 1999年 東京大学医学部附属病院 入局
- 2000年 日本赤十字社医療センター
- 2001年 横浜労災病院
- 2002年 東京都老人医療センター
- 2003年 虎の門病院
- 2008年 自治医科大学附属さいたま医療センター 総合医学第1講座（神経内科）病院助教
- 2012年 同上 助教
- 2014年 同上 講師・診療科長
- 2019年 同上 脳神経内科 講師・診療科長
- 2023年 同上 総合健診部長を兼務
- 2023年 同上 准教授（学内准教授）
- 2026年 埼玉精神神経センター 院長

4月1日に埼玉精神神経センター院長に着任しました、崎山快夫（さきやま よしお）と申します。皆さまの日頃のご支援の賜物とありがたく存じますとともに、大役に身の引き締まる思いでございます。

東京大学を卒業後、脳神経内科の医局に所属し後期研修として急性期の総合病院で勤務して参りました。脳神経内科の疾患は正確な臨床診断が難しいことが多く、病理診断を学ぶことで正確な臨床診断と的確な治療に近づけるのではと考え、大学院では東京都ブレインバンクの一員として神経病理を学びました。パーキンソン病の臨床基礎研究で、2008年の米国神経病理学会で最優秀発表として日本人で初のムーア賞を受賞しました。

自治医大に赴任してからは「地域神経内科」を掲げて、敢えて専門性は作らず、入院では神経救急・脳卒中の患者さんを、外来では神経難病の患者さんを中心に幅広く診療して参りました。神経学会では小児-成人移行医療対策委員会の立ち上げメンバーとなり、医師のピアレビュー調査によるBest Doctors in Japan™2024-2025に選出されました。

埼玉精神神経センターには2009年から非常勤医師としてお世話になっていたのですが、もの忘れ外来を担当して、地域との連携をより意識するようになり、急性期病院では体験できない地域連携の広がりや奥行きに魅力を感じていました。

これまでとは違う立場で患者さんと地域に貢献したいという思いで、埼玉精神神経センターへ入職させていただきました。よろしくお願いいたします。

